

NO!リニア

No. 4 6

2011年10月20日
JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

リニアと原発は密接な関係だ! リニアのために浜岡原発再稼働の恐れ!

『週刊朝日』10月21号に、広瀬隆氏の寄稿が掲載されています。これによると、「危険(原発の重大事故)を覚悟しろという人間(葛西会長)が、新幹線を営業。…そもそも、こんな人命軽視の人間が会長をつとめている鉄道会社が存在すること自体、社会的に許されない」と前置きした上で、大量の電力を浪費するリニアは必要ないとしています。そのリニアの電力確保のために、柏崎刈羽原発や浜岡原発が必要となることを指摘しています。

JR東海労はこの間、リニアと原発は無関係ではないことを主張し続けてきました。広瀬隆氏も私たちと同じく、原発とリニアの関係を鋭く指摘し、「推進」の構造を明らかにしています。

世論は「世界一危険な浜岡原発は永久停止すべき」というのが圧倒的意見です。この意見が牧之原市議会での決議に結実しています。リニア推進は、浜岡原発周辺の多くの住民を愚弄するものです。

10月23日には、シンポジウム「NO! 浜岡・NO!リニア」が開催されます。広瀬隆さんの特別講演が行われます。積極的に参加していきましょう!

人命軽視の葛西会長は、乗客の人命も軽視する!

原発破局を阻止せよ!

広瀬隆

29

排出増でも寒冷化
事実見ない言説

二酸化炭素温暖化説の崩壊④

福島第一原発メルトダウン事故を起した東京電力の財務実態リスクを監視する「東京電力に関する経営・財務調査委員会」(下河辺和彦委員長)が、10月3日に、東電の賠償と経営維持の方針に関する報告書を野田佳彦首相に提出した。これが東電の今後の10年間の経営の道筋を示す既定事実であるかのように報道されている。マスメディアの論調は、「東電の合理化案を委員会が厳しく査定し、コスト削減を求めた」というものだが、原発事故の被害を受けた国民から見ると、こんな甘い査定では東電の言いなりではないか、という憤りをおさえられない。この委員会は、第三者委員会と呼ばれていたが、原発推進の急先鋒であるJR東海の会長・葛西敬之がメンバーに入っていたのだ。24日付の産経新聞紙上で、「原発継続しか活路はない」と題して、驚くべき非常識な原発推進論を語っていた問題の人物である「原子力を利用する以上、リスクを承知のうえで、それを克服・制御する国民的な覚悟が必要である。(中略)腹を据えてこれまで通り原子力を利用して続ける以外に日本の活路はない」と書き、

国民に対して、重大事故を覚悟して原発を運転しろというのだ。言葉は失う。 「危険を覚悟しろ」という人間が、新幹線を営業して、東京・大阪間の高速鉄道を動かす、大量の人間を運んでいるのか! そもそも、こんな人命軽視の人間が会長をつとめている鉄道会社が存在すること自体、社会的に許されることはない。葛西のような人間が委員になって、何が第三者委員会か!

こうして委員会が、東電に求めるべき厳しい合理化を手段とし、「柏崎刈羽原発を稼働しなければ電気料金値上げが必要になる」というトンデモナイ結論を報告書で打ち出したのだ。大事故を起さずして、あらゆる産業と大量の個人生活を破壊